

公共施設の課題とその取組みについて

令和8年2月12日

にかほ市副市長 本田 雅之

にかほ市について

<構成地域>

仁賀保地区 金浦地区 象潟地区（3地区）

<旧町単位で在る公共施設（例）>

- ・ 体育館（+各小中学校にも体育館有）
 - ・ 公民館
 - ・ 市役所庁舎
- etc...

<現在の状況>

築年数の経過 + 施設数が多い

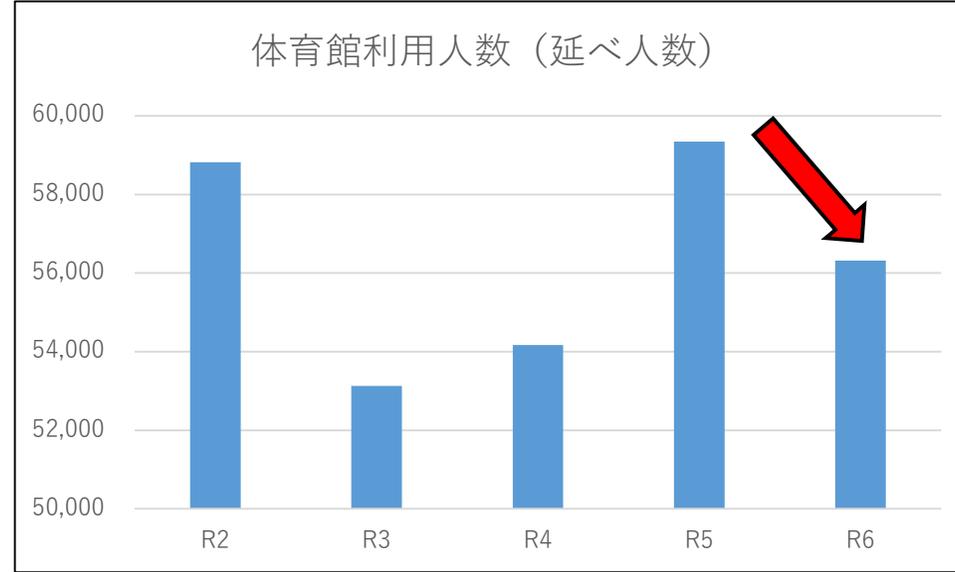
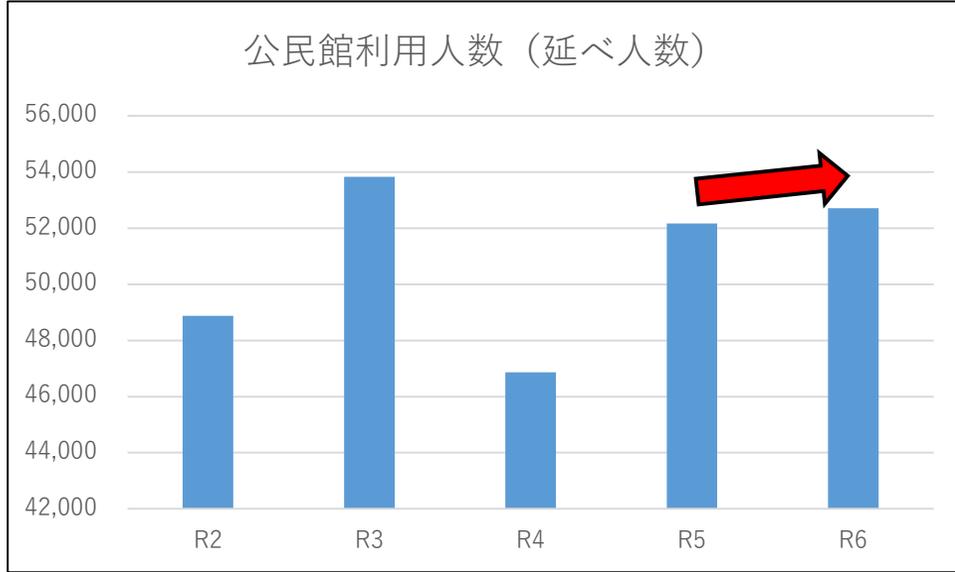
⇒ 多大な行政負担

令和7年10月：人口の社会増

⇒しかし、人口減少の流れは継続



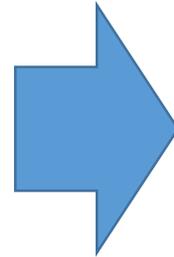
課題1 利用者減少と役割の希薄化



※～R4はコロナ禍



では、R5→R6の利用者延べ人数はどうか



公民館：微増



体育館：減少

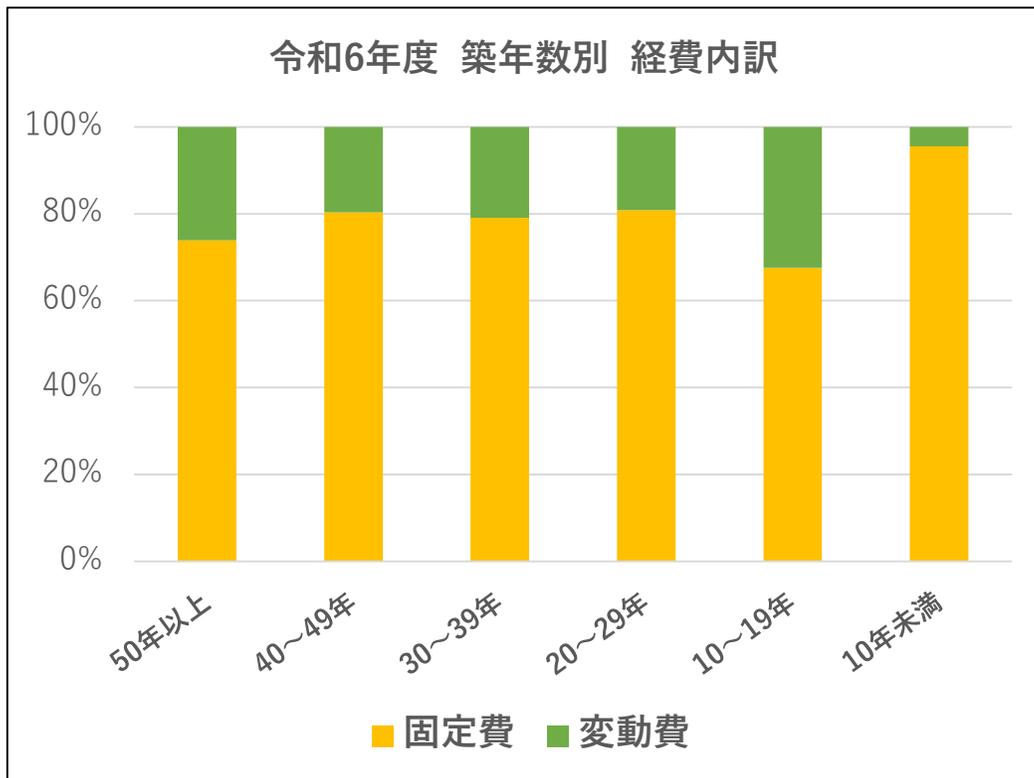
「人口が減れば、公共施設利用者は減る」

とは必ずしも言えない結果となった。

● 検討事項

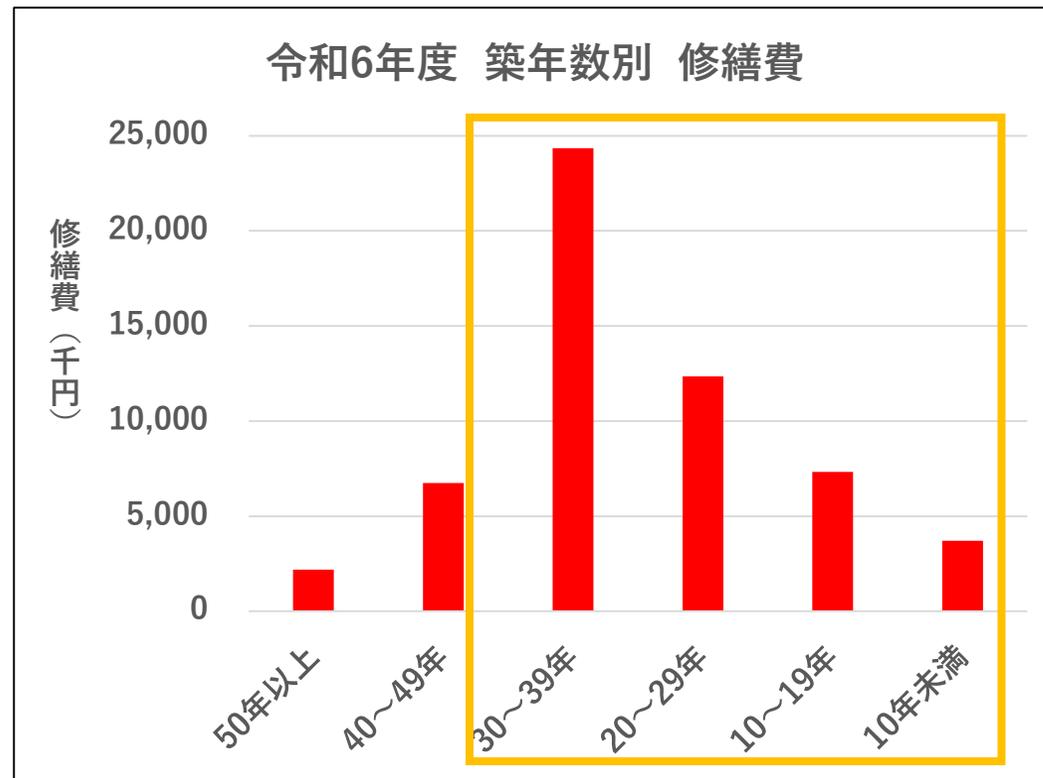
- ・ 利用団体やその構成員は？新規の利用者は？
→ 利用者の実態把握が必要
- ・ 利用者が減らないということは…
→ 「残すべき施設」と「役割を終えた施設」の線引き難化
⇒ 当該施設の維持へ進みがち

課題2 維持管理コストの増加



●光熱費、人件費などの固定費の割合が大きい

➡ 年々増加していく状況。
コスト抑制の限界。



●老朽化に伴う修繕費の増加

主な修繕の対象…今後使い続けていく施設
＝主に築40年以内の施設

その中でも古いものほど修繕費が増えていく傾向

課題3 地域コミュニティ拠点としての重要性

公民館
学校
体育館
各庁舎
⋮



建物系施設の総延床面積
を30%削減します。
(公共施設等総合管理計画より)

院内診療所を
小出診療所へ集約

小学校の統廃合
上郷小・上浜小→象潟小
小出小→院内小

古かったり危なかつ
たりあるし・・・

ここの施設はなく
さないでほしい。

この施設は継続し
て利用したい。



公共施設は地域の「顔」

統廃合 ⇒ 住民の不安や反発

<目指すべき姿>
「行政運営の効率化」と「地域の誇り」
を両立したまちづくり

※イメージ図



今後の方向性について

※複合型施設イメージ



●公共施設への向き合い方

- ・機能を複合化・集約化

公民館+高齢者福祉施設

図書館+学習スペース 等…

- ・施設運営の効率化

指定管理者制度の活用等

- ・利用者利便性の向上

公共交通の活用、Wi-Fi整備等

- ・地域課題への対応

子育て世帯間交流の場、相談窓口、
居場所づくり、備蓄倉庫 等々…

事例は参考にしつつ、それに囚われない発想

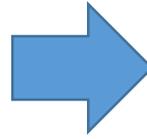
地域に合ったやり方があるはず！

地域の拠点としての価値を向上させる

利用したくなる・愛着のある施設へ

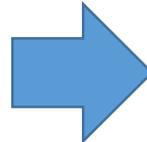
主な取組

・ガス事業の民営化 (令和2年4月～)



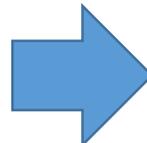
ガス事業関連の施設も移管となった。
＜民間活力の活用＞

・秋田県児童家庭支援センター「こねくと」
総合福祉交流センタースマイルに設置
(令和4年10月～)



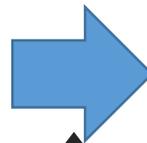
スマイルは、当市において
こども家庭福祉機能が集まっている施設。
＜複合化・機能強化＞

・釜ヶ台地区老人憩の家「はんの木」
・小出老人憩の家「けやき」
⇒仁賀保老人憩の家「午ノ浜温泉」へ集約化
(令和4年度～)



老朽化が進んでいた老人憩の家を廃止、
集約化することで、運営を効率化。
＜集約化＞

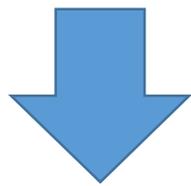
・鶴泉荘（温泉施設）の民間譲渡 (今後)



譲渡はこれから → 効果は今後検証。
＜民間活力の活用＞

まとめ

・旧町単位で在る公共施設



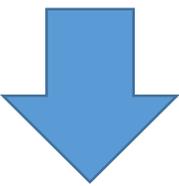
トレードオフの関係か？

行政運営の効率化と地域の「顔」
複合化・集約化と配置の工夫
で両立できないか？

・人口減少時代の到来

利用者が必ず減るとはいえない
→施設の維持へ

維持費に充てる歳入は増えない
→修繕の継続ができない



従来型の維持管理方法の限界

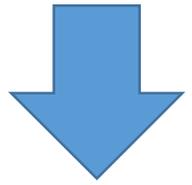
利用者の実態と需要の把握
+集約化・複合化
より多くの人に愛される拠点づくり
⇒地域の「顔」へ

・にかほ市の施設運営の柱

複合化&集約化

&

デジタル化



効率性・利便性・満足度向上

維持管理コストの縮減と運営効率化
長く使える・維持できる施設
⇒持続可能な施設運営を実現する。